

## 米株急落を受けて、国内株式相場は連日の大幅安

2010年5月7日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部  
副主任エコノミスト 人見 小奈恵  
TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

### 欧州の信用不安がギリシャ以外の周辺国に広がりリスク回避モードの中、米株急落に市場は一時混乱

ECBは政策金利を予想どおり1.0%に据え置きました。市場では、欧州のソブリン・リスクへの対処策として、ECBによる国債買い入れや、中央銀行間の通貨スワップ協定の再導入、ユーロ買い介入など、政策手段発動への期待が広がっていましたが、これらはいずれも見送られたことから市場には失望感が漂いました。また、ムーディーズが「ギリシャの財政悪化問題が、イタリア、ポルトガル、スペイン、アイルランド、英国の銀行システムを脅かす」と示唆するなど、ギリシャの信用不安が他の周辺国にも波及し、ユーロは急落しました。ギリシャ、ポルトガル、スペインの国債利回りの対独スプレッドは一段と拡大し、欧州の主要株式相場も軒並み大幅安となりました。その中で、ギリシャのアテネ株価指数については4日ぶりに反発しました。しかし、イタリアは▲4.3%、スペインは▲2.9%と大きく下落しており、財政悪化問題に対する市場の関心がギリシャ以外の周辺国へ広がっている様子が窺えました。

一方、米国株式相場も欧州のソブリン・リスクの懸念が広がる中、主要3指数はいずれも▲3%を超える大幅安となりました。下げを主導したのはハイテクや金融でした。NYダウは朝から軟調に推移していましたが、MY時間の午後2時45分、NYダウは一時▲998.5ドル安(▲9.2%安)まで急落しました。これを受けて円高が急速に進み、一時、ドル・円は87円台、ユーロ・円は110円台まで下落しました。急落の原因として、市場では米銀大手によるトレーディング・エラー観測などが飛び交っていましたが、一部の銘柄の株価が大きく乱高下する不自然な動きが見られました。株価急落後はすぐに元の水準まで戻りましたが、リスク回避モードが広がる中での急落に、株式市場は一時混乱しました。欧米市場全体を通して、株安、原油安、米国金利低下、VIX指数高、円やスイス・フラン高と、リスク回避の動きが鮮明な展開でした。

### 米株急落を受けて国内株も大幅安で推移

欧米株安を受けて、国内株式相場は大幅安で始まり、日経平均先物の寄り付き値は前日比▲460円(▲4.3%)安の10,220円でした。東証一部上場の値下がり銘柄数は98%に達する全面安の展開でした。中でも急速な円高進行を受けて電機などの外需関連株が下落を主導しました。また、前日は主力大型株中心の下落でしたが、本日はこれまで値持ちの良かった中小型株中心に利益確定売りを急ぐ動きが見られ、東証マザーズなどの新興市場の株価指数は一時、▲5%を超える大幅安となりました。ただし、日経平均株価は寄り近辺で大きく下げたものの、CMEの日経225先物終値(10,175円)を下回ることはなく、10,250円近辺で下げ止まりました。その後、「ギリシャ問題について、G7が今日にも電話会談を実施」との一部報道や、3月の鉄鋼輸出量が前年同月比+60.6%増と単月で過去最高を記録したことなどを背景に大手鉄鋼株が持ち直したことなどから、後場に入り日経平均株価は下げ幅を縮小し、10,300円台後半での推移となりました。全体を通して小動きの展開でしたが、大引けでは株価指数先物の買い戻しも見られ、結局、▲331円安の10,364.59円で引けました。東証一部売買代金は前日に引き続き2兆円を超え、世界的な信用不安の高まりを背景にリスク許容度の低下から日本株売りの投資家がいる一方、下値では買い支える動きも窺われました。欧州の信用リスクの問題解決への道のりは遠いものの、市場の過度の悲観的な見方は徐々に後退してくるものと思われます。

以上